



ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

今年の夏は本当に暑かったのですが、その暑さもどこへやら。少し早めの雪の便りが聞かれる候になりました。世界のニュースではアメリカの超巨大ハリケーンやヨーロッパの大洪水、中南米の大干ばつや記録的猛暑など、これまでには無い異常気象の報告が相次いで聞かれました。今や異常気象は常態化し、むしろ気候の大変動が起こっていると思われます。

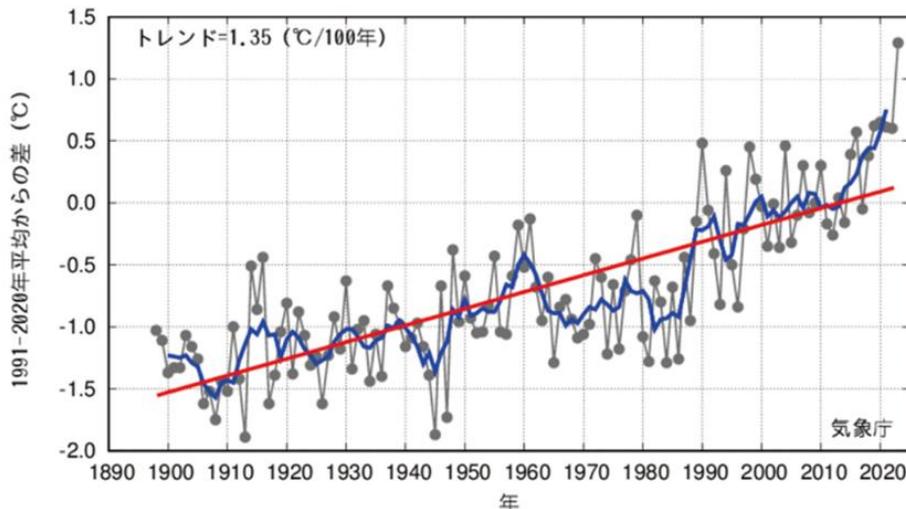


国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり地球沸騰化」の時代が到来したと声明、その危機感を訴えました。科学技術の発達に伴い大量消費社会の恩恵を受けてきた我々は、いま地球環境を破壊して来た報いを受けているのかも知れません。使い捨ての時代から循環型社会への転換が必要と思うこの頃です。メルカリに代表されるフリーマーケットによるリサイクルはそんな時代のニーズに応えたものと思います。

(下のグラフは気象庁が示した我が国の気温の変化で、特に今年(右端)が異常高温であったことが分かります) 2024/10/22記

日本の年平均気温偏差

日本の年平均気温偏差



日本の年平均気温偏差の経年変化(1898～2023年)と順位表(上位5年)



厚生労働省

新型コロナウイルス感染症について
mhlw.go.jp



消費者庁

新型コロナ関連消費者向け情報
caa.go.jp



糖尿病内科（糖尿病・生活習慣病センター）

部長 酒井 健太郎

糖尿病内科では、糖尿病・脂質異常症に対する治療を中心に診療を行っております。糖尿病の治療目標は血糖・血圧・脂質の良好な血糖コントロール状態を維持することで糖尿病合併症の発症・増悪を防ぎ、健康な人と同様の生活の質を保ち、糖尿病のない人と変わらない寿命を全うすることにあります。当科では平成22年10月に糖尿病・生活習慣病センターを設立し、現在医師4名、糖尿病認定看護師・療養指導士（看護師、管理栄養士、薬剤師等）により、糖尿病内科の外来入院患者および院内他科入院中の糖尿病患者への糖尿病指導を行っており、スタッフや周辺地域の医療者を対象とした勉強会を開催しています。糖尿病患者会の設立、地域住民に対する啓蒙活動も行っております。

診療医師

森合哲也（部長）1981年卒

日本糖尿病学会研修指導医・専門医
日本消化器病学会指導医・専門医
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
日本内科学会総合内科指導医・専門医
日本医師会認定産業医

酒井健太郎（部長、糖尿病・生活習慣病センター長）2010年卒

日本糖尿病学会専門医
日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医

高橋耕平（部長）2011年卒

平間凜（医員）2020年卒

学会認定

日本糖尿病学会認定教育施設

診療実績

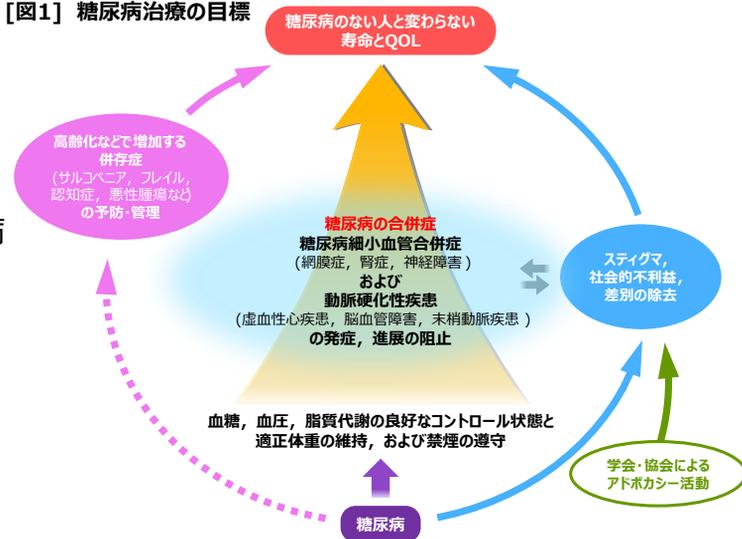
糖尿病内科の患者様は年々増加しており、2023年度の糖尿病外来患者数は2162人、入院患者数は144名でした。

近年代表的な生活習慣病である糖尿病・脂質異常症は生活の欧米化や肥満の増加とともに増加しているとされており、近年は従来のインスリン治療や経口薬による治療だけではなく、SGLT-2阻害薬やGLP-1受容体作動薬など多面的な効果と豊富な治療エビデンスを持つ薬剤が登場したことで、これまでは入院加療を避けることができなかった患者様を外来で治療継続することが可能になってきています。

また今年度より当科は4名体制での診療となっており、より多くの糖尿病患者様の診療に従事できる環境になっています。

治療目標とコントロール指標

【図1】糖尿病治療の目標



日本糖尿病学会編・著 糖尿病治療ガイド2022-2023, P.31 文光堂, 2022

薬物療法別人数

